

米国経済・株式市場情報

ジャクソンホール会議での注目点

注目点は金融政策より政治問題、米国よりもユーロ圏か

- 8月24日から開催のカンザスシティ連銀年次シンポジウム（通称：ジャクソンホール会議）ではドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁とイエレン連邦準備制度理事会（FRB）議長の発言が注目される。
- 市場の注目は、米国よりもユーロ圏の金融政策か。また市場を動かす要因は金融政策よりも政治要因との見方も。

＜金融政策への言及期待は薄い？市場関係者の注目の的はイエレン議長よりドラギ総裁か＞

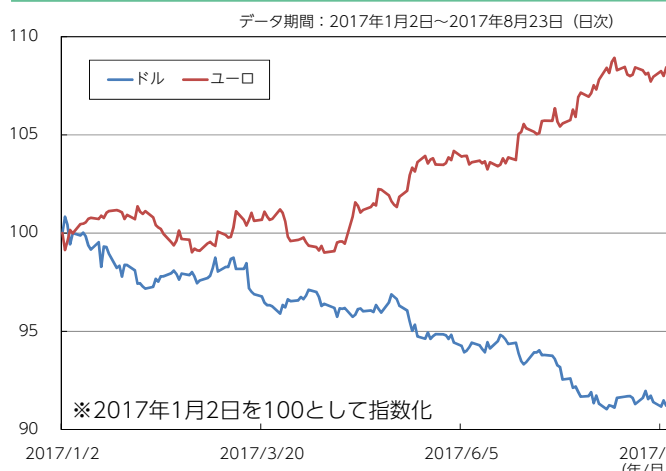
8月24日～26日開催のジャクソンホール会議では、世界各国の中央銀行総裁などが一同に会し経済政策の討議や講演が行われます。過去の会議ではその後の金融政策に触れる発言があったことから、今回も米国、欧州参加者の発言に注目が集まっています。もっともイエレン、ドラギ両氏が今後の金融政策の詳細に言及する可能性は低いと見られており、ECB関係者も「講演は驚くような内容にならない。」とメディアに公表しています。しかし、両氏の発言から政策への糸口はつかめないか市場参加者は注目しており、「会議終了までは、手元のポジションを動かすにくい状況」との声もあります。

市場参加者の注目は、「比較的早期」に4兆5000億ドルに拡大したバランスシートの縮小開始、その後（また同時に）利上げを行うと表明しているFRBよりも、ユーロ圏の堅調な経済成長を受け、大規模な資産購入を縮小する時期を検討するタイミングにあるドラギECB総裁の発言に注目が集まっているようです。その一方で、金融政策よりも北朝鮮問題などの地政学リスクや米国の債務上限問題、トランプ政権の政策実行の遅れなど政治リスクの方が世界のマーケットを動かす要因となりえるとの見方もあります。

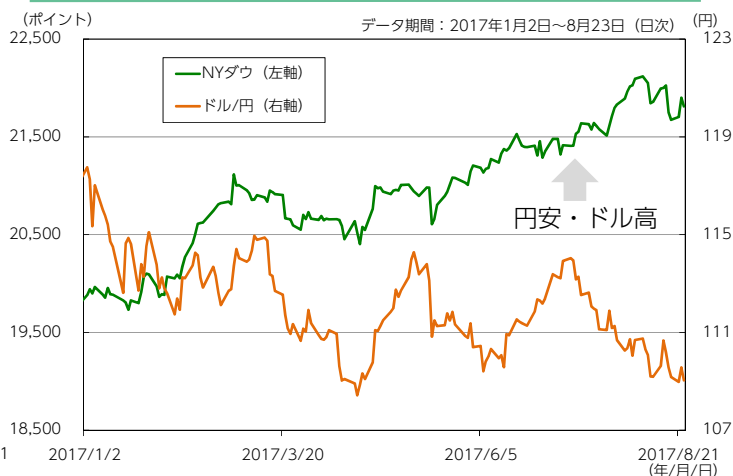
＜会議を前にドルは下げ止まり傾向、イエレン議長の利上げへの言及はあるか＞

ドルは今年に入り下落基調にあり、その背景には早期利上げ期待の低下やトランプ政権の混乱などがあると思われます。一方、ユーロは堅調な経済成長を背景に上昇基調にあります。会議を前に両通貨は停滞傾向にあるようです（図表1）。仮に会議において利上げ時期などのイエレン議長の発言があれば、ドル・米国金利の上昇要因と考えられますが9月の債務上限問題などの政治リスクも意識され始めており、状況次第では更なる米国金利の上昇要因、ドル・米国株の調整要因ともなりえるため注意が必要です（図表2）。一方でユーロは金融緩和縮小による金利上昇はユーロ高の要因となりえますが、ユーロ圏経済の輸出産業への影響から景気の腰折れを招きかねないため、政策転換のタイミングに注目が集まると考えられます。

図表1：ドルとユーロの動き（実効レート）



図表2：米国株とドル/円の動き



出所：図表1、図表2ともにブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧誘するものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント

1/1